

全国大学書道学会「大学書道研究」執筆要項

（一）

1 用紙はA4を使用し、縦組み、二段。毎行三三字、各段三〇行。タイトルは上下通しで五行分使用する。従来記入してきた所属機関名・役職名は不要とする（組見本参照）。

2 フォント、ポイント文字数、余白などについて

【ワード文書】で作成の場合

フォント…MS明朝 10ポイント

〈ファイル〉の中の〈ページ設定〉をクリックする

〈文字数と行数〉方向…縦書き、文字数33 行数30

〈余白〉をクリックする

外側7mm 内側23mm 左25mm 右側25mm

〈印刷の向き〉縦 〈印刷の形式〉袋とじ

【一太郎文書】で作成の場合

フォント…MS明朝 10ポイント

〈ファイル〉の中の〈文書スタイル〉をクリックする

スタイル…縦組み

字数…33 行数…30

袋とじ…横割り

マージン…上下23mm 中央14mm 左端25mm 右端25mm

ページ番号は…「付けない」

3 ページ数は右下に鉛筆にて通し番号（1〜）を記入する。印字しないこと。

4 数字は漢数字、単位はアルファベットを原則とする。

例；一五、昭和二九年、八六頁、六四、二cm、五四〇kgなど。

5 注は本文中の該当部分（右横）に通し番号を付し、最終章の後にまとめて記す。

例； ↑5ポイント

「…共通性を強く感じる。」 ↑10ポイント

なお、設定不能な場合は「…共通性を強く感じる。」でも可。

〔注〕（一）ここでいう共通性とは、王羲之の… ↑9ポイント

6 注に記す文献の引き方について

例；

（2）山本陽子編『古代文字の諸相とその国家』大学書道出版会、二〇〇八。

↑9ポイント

（3）鈴木市郎「紀貫之とその時代」『日本書道学会紀要』（第六号）所収。

二〇〇七、八五〜二〇〇頁。

（4）Barnard, N., *Bronze Casting and Bronze Alloys in Ancient China*,

Tokyo, 2006, pp185-197.

7 参考文献は「注」の後に付す。

（二）

1 枚数は一二枚以内。最終頁が著しく半端になる場合（たとえば、上段

二行めで終わるなど）は、前頁に収まるように設定する。

2 そのまま印刷するため、より白い用紙を使用すること。

3 鮮明な図版の仕上がり我希望する場合は、別に画像資料を添えること。

4 英文によるタイトルと氏名は必ずワープロで作成し、採用された原稿

を提出する際（二〜三月頃）に同封すること。なお、作成した英文タイトルを編集担当者へ電子メールで送信すること。

